



# 古代山陰道ウォーク

in あおいち 2019

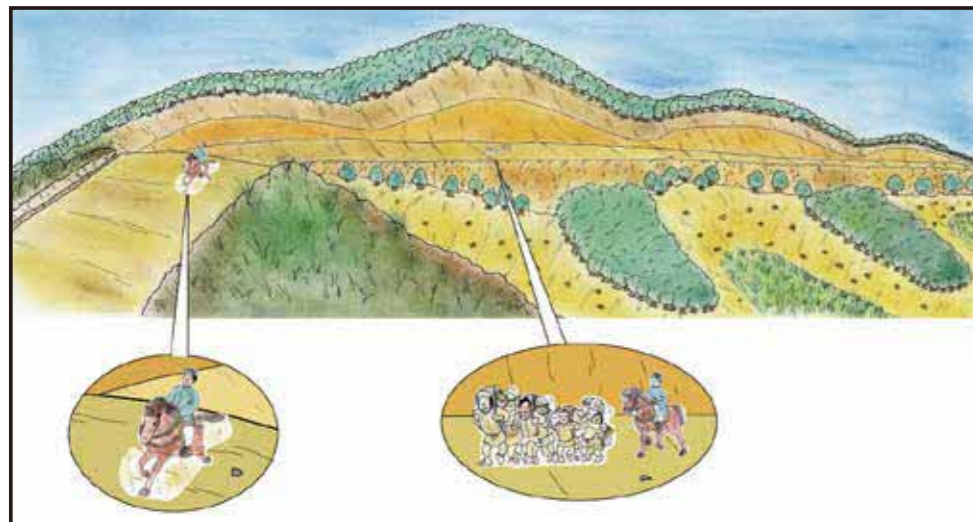


## 東側丘陵の古代山陰道

青谷横木遺跡で確認された古代山陰道が東へ向かうには、標高 100mを越える急峻な丘陵地帯を越えて行かなければなりません。

丘陵上における古代官道のあり方を考えるうえで参考になるのが、国史跡出雲国山陰道跡で発見された道路遺構です。ここでは、丘陵上を 1 キロにわたって敷設された道路遺構が発見され、盛土工法でつられた低湿地の道路とは異なり、切土工法（オープンカット）を主体とし、盛土工法を巧みに組み合わせることで直線的な道路がつけられています。今回、東側丘陵で確認した大規模な切通しや加工段は、この出雲国山陰道跡の道路痕跡と非常によく似ており、古代道路の痕跡である可能性があります。

古代山陰道は東側丘陵を越えると、逢坂谷へと入り気高町会下付近に達します。青谷平野に推定される柏尾駅家についても、西隣の伯耆国笥賀駅家（湯梨浜町石脇第 3 遺跡）が青谷からわずか 3 km程度しかなく、平均 30 里（16 km）とされる駅家の間隔からは近すぎることから、会下付近に置かれたとする説もあります。

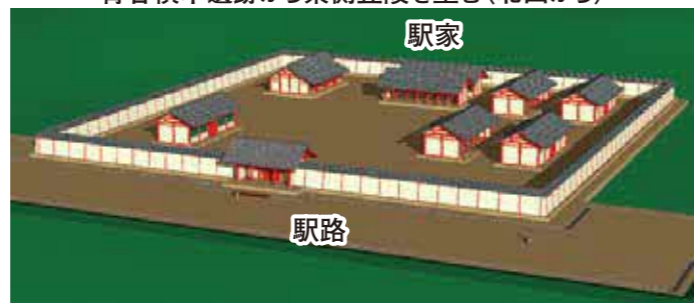


丘陵上の古代官道イメージ(出雲国国史跡「出雲国山陰道青跡」)  
図:出雲市市民文化財文化財課提供

## 発見された切通し



青谷横木遺跡から東側丘陵を望む(北西から)



山陽道の布勢駅家(播磨国・兵庫県)イメージ図  
(提供:北海道教育大学教授中村太一)

駅家は官衙(役所)や寺院と同じく瓦葺きの格式高い建物が建っていたと考えられています。伯耆国笥賀駅家とされる石脇第 3 遺跡でも瓦がたくさん出土しています。



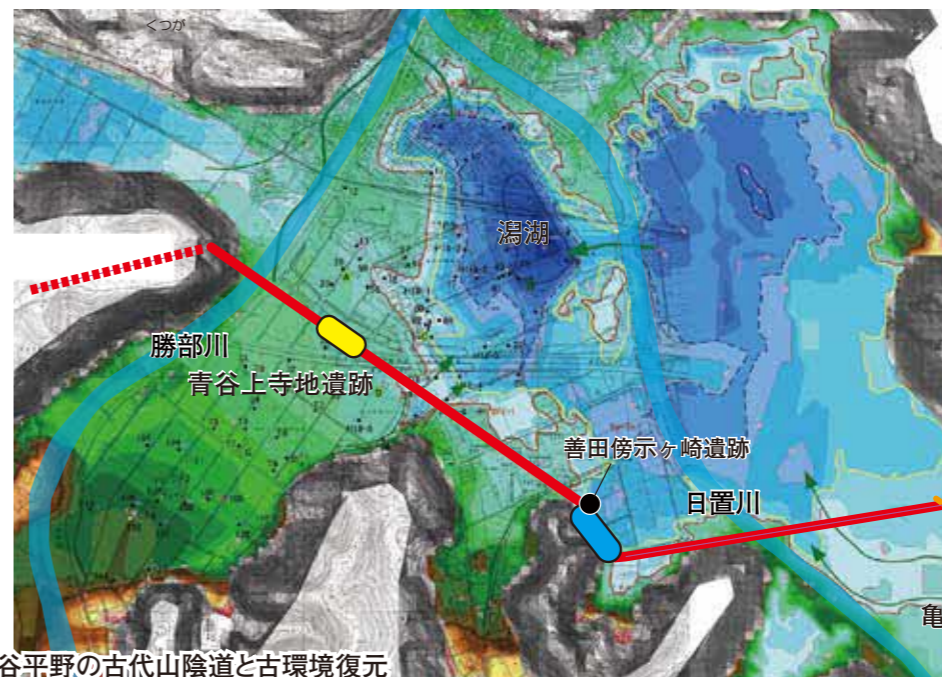
出雲市杉沢遺跡の古代山陰道  
出典:「出雲国古代山陰道発掘調査報告書-出雲市三井II・杉沢・長原遺跡の調査-」2017出雲市教育委員会

## 古代山陰道駅路

古代山陰道は、律令国家が飛鳥時代から奈良時代にかけて整備した大規模な道路(駅路)の一つで、現代の高速道路にあたります。駅路は「七道駅路」とも呼ばれ、緊急の情報伝達のために全国に張り巡らされ、重要度に応じて大路・中路・小路に分けられました。山陰道は北陸道や南海道などとも小路に含まれます。駅路は都と地方を最短距離で結ぶために直線的な路線設計が行われ、古代山陰道は幅約 9mもの広い道幅を有し、側溝も備えていたことが発掘調査から明らかになってきています。また、青谷横木遺跡では柳の街路樹が国内では初めて発掘調査で発見され、古代山陰道も都大路などにならない、格式高い道路景観が演出されたと考えられます。

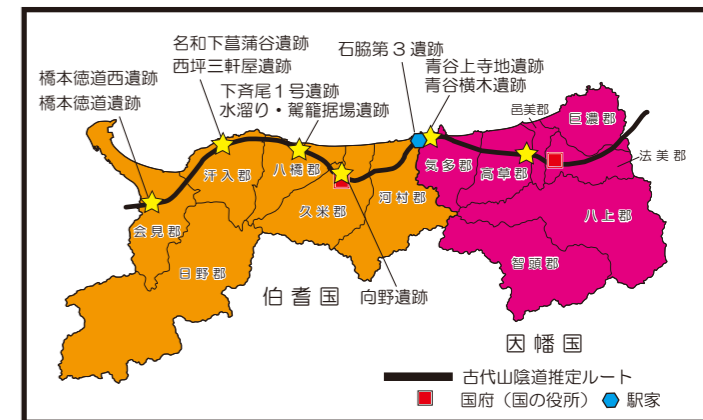
## 青谷平野の古代山陰道

青谷平野では、青谷横木遺跡と青谷上寺地遺跡で古代山陰道と考えられる道路遺構が発見されています。道路は盛土工法で築かれ、盛土内に葉や枝を敷き詰め、道路盛土の地盤を補強し、排水を行う「敷葉・敷粗朶工法」が確認されています。この工法は当時、朝鮮半島から伝わった渡来系の土木技術でした。当時の青谷平野は弥生時代から続く潟湖が依然として営まれており、軟弱地盤を克服するためにこうした高度かつ、最先端の土木技術が駆使されたと考えられます。



青谷平野の古代山陰道と古環境復元

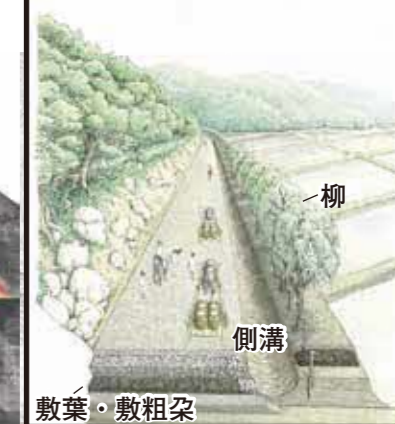
令和元年 10 月 6 日 (日)



鳥取県内で発見された主な古代官道



道路 側溝



敷葉・敷粗朶

青谷横木遺跡の古代山陰道  
青谷横木遺跡

古代山陰道推定ルート

亀井囃



鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260番地  
TEL 0857-27-6711  
FAX 0857-27-6712  
ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/maibun>  
フェイスブック [www.facebook.com/tottorimaibun](http://www.facebook.com/tottorimaibun)

# 古代山陰道ウォーク in あおいち

あおいち会場  
(鳥取市青谷町総合支所)

青谷駅

青谷上寺地遺跡  
の古代山陰道跡

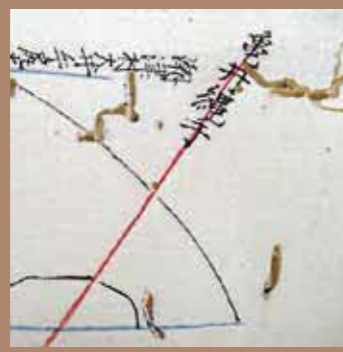
鳥取西道路

日置川

スタート・ゴール・駐車場

道路痕跡とみられる  
幅17mの地割

## ポイント2 亀井縄手



かめいこれのり  
亀井茲矩が鹿野城から青谷にあった芦崎港に行くため、もしくは青谷町養郷周辺の新田開発を行うために造ったとされる道路跡です。  
江戸時代の絵図に示された亀井縄手

## ポイント3 養郷坂

ようこうざか  
亀井縄手につながる江戸時代の峠道。東は鹿野城に達する鹿野往来につながっています。

## ポイント1 青谷横木遺跡



発掘された古代山陰道

山裾に沿って幅6~7mの大規模な道路遺構が見つっています。道路は7世紀終わりごろに造られ改修しながら11世紀にいたるまで使われました。  
10世紀後半の改修時には、条里地割(土地区画)も一体で整備されたことが明らかとなっています。

## ポイント5 県史跡 阿古山22号墳

古墳時代終わりごろにつくられた、巨大な横穴室石室を持つ古墳です。石室には線刻により船や星が描かれています。海上交通や港を掌握し、日本海を舞台に活躍した古墳時代の豪族がこの地にいた可能性があります。



## ポイント4 丘陵頂部の切通し



長さ400m程にわたって、道路痕跡とみられる切通しや人為的に加工された幅広い段(平坦面)を確認することができます。

江戸時代の道標  
『右志加奴エ 左ハ山みち』

会下坂

ウォーキングコース  
古代山陰道推定ルート

0 500m